

# 温暖化の影響があらわれてきた

世界各地で温暖化の影響ではないかと考えられる現象があらわれてきています。目につく影響としては、次のようなものがあります。

5th Mar 2002  
17th Feb 2002  
31st Jan 2002  
1995

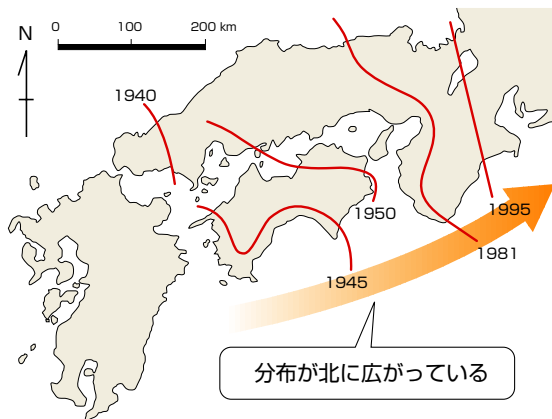
## 南極半島の棚氷が崩壊

南極大陸から海上に張り出していたラーセン棚氷という氷塊が、とけて崩壊し始めています。1995年には1,300km<sup>2</sup>（沖縄本島とほぼ同じ）、1998年には300km<sup>2</sup>（霞ヶ浦の1.4倍）、2002年には3,250km<sup>2</sup>（鳥取県とほぼ同じ）がとけて崩壊し、冰山となりました。

アルプス、ヒマラヤ、アラスカの氷河もとけ始め、大きく後退しています。

崩壊するラーセン棚氷（文献1より）

## 自然生態系にも影響



分布が北に広がっている

植物や昆虫にも変化があらわれています。

かんきつ類の害虫として知られるナガサキアゲハは、1940年頃には山口県、愛媛県などより南でしかみられませんでした。1995年には、近畿地方でもみられるようになりました。



ナガサキアゲハ

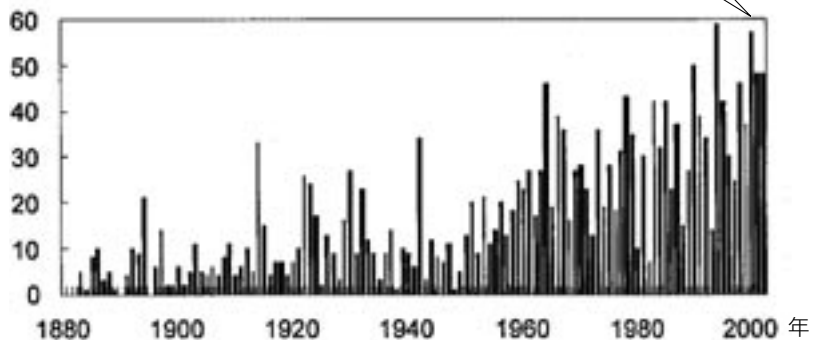
また、桜は、気温の高い日が続くと花を咲かせますが、日本では、桜の咲く日がここ50年間で5日早くなっています。

ナガサキアゲハの分布の北上（文献2より）

## 熱帯夜が増加

最低気温が25℃より下がらない「熱帯夜」は、暑くて不快な夏の夜をもたらします。この熱帯夜が最近になって増えてきています。例えば大阪では、1920年以前は熱帯夜がひと夏に10回以下程度しかありませんでした。それが、1940年代頃から急激に回数が増えて、今では熱帯夜が50回以上という夏も珍しくなくなってきています。

年間の熱帯夜回数



暑い夜が増えてきている

大阪における年間の熱帯夜回数（文献3より）